

名古屋大学博物館・サテライトフォーラム開催記録 「姉妹校博物館連携による知の創造と共有」

Records of Satellite Forum — The Nagoya University Museum “Search for a new concept in education and research through cooperation with sister university museum”

会 場：名古屋大学博物館 3階講義室

開催日時：6月29日(土)、30日(日)

概要報告

名古屋大学国際フォーラム2002の一環として、博物館でサテライトフォーラム「姉妹校博物館連携による知の創造と共有」が開催されました。

このフォーラムは、名古屋大学博物館と海外の学術交流協定締結校の大学博物館や主要な博物館との連携をさらに推進させ、長期的視野に立ったよりよいパートナーシップを構築することを目的に実施したものです。29日の午前中には国際大学博物館協議会(UMAC)議長のピーター・スタンバリー博士(オーストラリア、マッコーリー大学)による特別講演会が、午後からは第5回NUMCo(博物館コンサート)を挟んでパネルディスカッションが行われました。

特別講演会では、大学博物館の国際的な連携の重要性と、国際的にも大学博物館における次世代教育等への期待の高まりについての紹介がありました。その中で、UMACについての最新情報は、今後の本学の博物館活動にとって非常に役立つものでした。特別講演の内容については、博物館スタッフによる日本語の通訳があったため、一般市民を交えた約50人の参加者にとって理解しやすいものとなりました。

午後1時半からの博物館コンサートでは、海外からのフォーラム参加者を含め約80人の聴衆を前にして、ヴァイオリンとチェロの演奏が行われました。引き続き行われたパネルディスカッションには、シドニー大学マックレー博物館のヴァネッサ・マック館長、韓国の木浦大学校博物館の催盛洛館長、ドイツのゼンケンベルグ博物館のヨアヒム・ショルツ主任研究員、元ロンドン自然史博物館展示・教育部長のジャイルズ・クラーク博士、名古屋市科学館の樋口敬二館長、および名古屋大学博物館長の足立 守教授がパネラーとして、博物館連携のあり方や各博物館の抱える問題点、Muse therapy(ミュージ・セラピー)といった新しい考え方(図1)などについて話題提供をし、それに基づいて活発な意見交換が行われました。とくに大学博物館が有する「人」・「標本」・「情報」について、具体的にどのような国際的な連携が可能であるのか、あるいは国際的な博物館ネットワークによる知の共有が21世紀の大学教育にどのように活かせるのかなどについて、様々な角度から議論が行われました。木浦大学校博物館長からは、2000年に新設された博物館の建物と展示品の紹介もあり、注目を集めました。

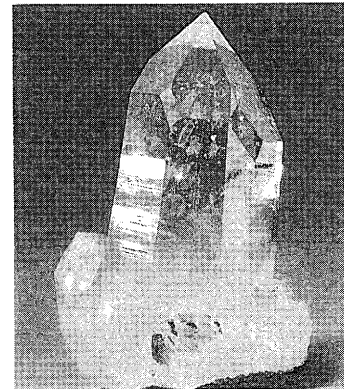
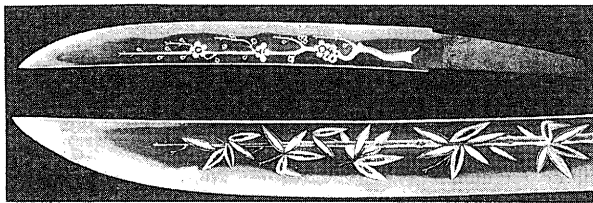
Role and mission of the Nagoya University Museum in the 21st century

In connection with UMAC

- Promoting the international sharing of knowledge
- Educating the next generation
- Managing scientific resources effectively
- Preserving our cultural and technological heritage

"Muse therapy"

- Display of real specimens of importance
- Music, painting, calligraphy, photography, pottery, etc.
Both appear to have a significant effect on the human mind and may be able to help mentally stressed people. Museum pieces as well as artistic and cultural displays can be useful in terms of therapy.



6月30日には、海外からの参加者と博物館スタッフの11名で名古屋市科学館と愛知県陶磁資料館の見学会を行い、展示方法などについて現地討論会を行いました。今回のサテライトフォーラムは、今後の博物館連携に向け、お互いの情報を共有し合う出発点として有意義なものとなりました。

プログラム

1. 開会挨拶 (足立 守 名古屋大学博物館長)
2. 特別講演 国際大学博物館委員会議長 (UMAC : Peter Stanbury)
3. 第5回 NUMCo (博物館コンサート)
4. 各大学博物館等における現状と連携について
 - 4.1 足立 守 (名古屋大学 博物館長)
 - 4.2 Vanessa Mack (シドニー大学 マックレー博物館館長)
 - 4.3 崔 盛洛 (木浦大学校 博物館長)
 - 4.4 Giles Clarke (元ロンドン自然史博物館 展示・教育部長)

名古屋大学国際フォーラム
名古屋大学博物館サテライトフォーラム
NUM
姉妹校博物館連携による
知の創造と共有
Search for a new concept in education and research through cooperation with sister university museum
2002
6/29 (土)
午前10:00～午後5:00
特別講演
午前10:00～11:30
「大学博物館
～その価値と国際的パートナーシップの構築～」
Building value into university museums and forging international partnerships
Dr. Peter Stanbury
International Committee for University Museums and Collections (ICUMC)
午後1:30～2:00
第5回NUMCo (博物館コンサート)
演出科子(フライング)・Weitzer 編曲 (手エロ)
午後2:00～5:00
姉妹校・連携博物館招待者とのパネルディスカッション
お問い合わせ ●名古屋大学博物館 TEL:052-789-5367/5367 FAX:052-789-5366 e-mail:entry@num.nagoya-u.ac.jp

4.5 Joachim Scholz (ドイツ・ゼンケンベルク博物館 苔虫動物学部門主任研究員)

4.6 樋口敬二 (名古屋市科学館 館長)

5. 総合討論

6. 終了

招聘者 (報告者およびコメンテーター)

- ・ オーストラリア、マッコーリー大学 国際大学博物館協議会 (UMAC) 議長 Dr. Peter Stanbury
- ・ シドニー大学 マックレー博物館館長 Ms Vanessa Mack
- ・ 韓国木浦大学校 博物館長 崔 盛洛
- ・ ドイツ・ゼンケンベルク博物館 苔虫動物学部門主任研究員 Dr Joachim Scholz
- ・ ロンドン自然史博物館 展示・教育部長 Dr Giles Clarke
- ・ 名古屋市科学館 館長 樋口敬二

添付資料

- 特別講演会資料
- パネルディスカッション資料



フォーラム参加者

Scope of International Forum in the Nagoya University Museum

Search for a new concept in education and research through cooperation with sister university museum

[Background]

The Nagoya University Museum (NUM) was established in April 2000. The main purpose of the NUM is (1) to promote access to specimens and their data for further research and education in the university, (2) to develop new methodologies for analysis and preservation of specimens, and (3) to promote public understanding through displaying research results, on-going experiments and details of investigations. Particularly, public understanding and international cooperation are essential to the survival of the university in the 21st century.

[Theme of Forum]

This is the 1st international forum held in the Nagoya University Museum (NUM). In this forum, the following items will mainly be discussed in order to develop new international partnerships between the sister university museum and key foreign museums.

- Development of an information exchange system or network such as Internet data-base exchange.
- Development of a methodology to use museum specimens and relevant information for education of the younger generation.
- Development of museum collaboration for education and research of nature and culture.

(報告者：吉田英一)